



コミュニティ・ファシリテータ研修
(ビディビディ難民居住地区内の教会)



Republic of
Uganda

アシストアフリカ!

アフリカは今、世界でも最大規模の国内避難民と難民を抱える地域です。「アフリカ最大の難民危機」と指摘されるほどの事態にもかかわらず、その実情が日本に伝えられる機会は少なく、知るすべも限られています。日本から約1万km離れた大陸で、何が起きているのか。タウトク編集部では、南スーダン、ケニア、ウガンダで活動するNGOピースウィンズ・ジャパンの協力により、その現実の姿を伝えていきます。支援活動を続ける同スタッフの奮闘のレポートを紹介しつつ、アフリカが抱える問題を少しずつつひもとき、少しでも身近な出来事だと感じられるようにしたい。

株式会社メディコムでは、読者の皆さんにタウトクを1冊(350円)購入いただくにあたり、その約1%である3円をアフリカの復興支援のために送金します。

「支援している」という高みに立った目線ではなく、積極的に関わり合いをもつことで現地の様子が気になるようになり、やがて世界で起こっているいろんな紛争や悲劇と、自分たちは決して無縁ではないことを肌で感じるための「3円」だと思っています。ぜひこの1%運動をご理解いただき、本誌連載にご注目ください。

PWJの携帯サイトはこちら!



世界各地で支援活動を続けるスタッフからの「現地活動レポート」、最新のNEWSなどの情報が携帯からチェックできるようになりました! 左のQRコードからアクセスしてみてください!
<http://peace-winds.org/>

タウトクでは毎月、アフリカの国内避難民・難民支援事業へ送金した金額=タウトクの販売部数×3円を読者のみなさんにお知らせします。

タウトク7月号の販売部数

5,050部×3円=15,150円

を支援金としてPWJを通じアフリカの国内避難民・難民支援事業に送りました。

ご利用明細票	
月取項目	送金
口座番号	00000000000000000000
振込先	00000000000000000000
振込金額	15,150円
振込手数料	0円
合計	15,150円

peace winds JAPAN

月刊タウン情報トクシマ

タウトク

medicomm inc
株式会社メディコム
月刊タウン情報トクシマ編集部

ピースウィンズ・ジャパン現地レポート

地域で支えあう力を高めていくリーダー役を育てる -ウガンダ・ビディビディ難民居住地区にて-

皆さま、こんにちは。ウガンダ・ユンベ事務所に駐在しているアレンです。ウガンダでは8月から本格的な雨季に入り、朝や夕方は比較的涼しい日が続いています。

今回は3月から新たに開始した「コミュニティ・レジリエンス活動」を紹介します。この活動は、ピースウィンズ・ジャパン(PWJ)が2016年より活動している、ウガンダ北部にて約30万の難民が暮らすビディビディ難民居住地区で行われています。

この活動の狙いは、難民のコミュニティが政府や支援団体に頼るばかりでなく、自らも地域課題に対応できる力をつけることです。そして、PWJが主な支援対象としてきた障害者、高齢者や子どもだけの世帯など、特別な支援を必要とする人々のことも理解し、みんなが安心して暮らせるコミュニティを目指しています。

この活動に欠かせないのがコミュニティ・ファシリ

タがコミュニティ活動に参加しやすい環境をつくります。

ファシリテータの1人、ビディビディ難民居住地区に住むロシアナ・タブ(Rosiana Tabu)さん(31歳)は、



ロシアナ・タブさん

2016年10月に南スーダンからウガンダに逃れ、それ以来この難民居住地区で4人の子どもの親と離れてしまった他の2人の子どもの面倒を見ながら暮らしています。夫は南スーダンに残っています。

この研修について「いままできちんと知らなかった地域の

仕組みや、特別な支援を必要とする人々に関する知識などが深まり、とても充実しています。意義がある活動だと思う」と語り、熱心に取り組んでいます。また、研修後に期待することを尋ねると、こう答えました。「私たちファシリテータが研修で学んだ知識を生かして活動すれば、きっとコミュニティは良い方向に向かうと思う。以前より暮らしやすいと、みんなが思えるようにしていきたい」。

さっそくリーダーの自覚が覗える頼もしいタブさん始め56人、それぞれのコミュニティで今後の活動に期待しています。

PWJは難民の方、特別な支援が必要な難民の方たちが、自身でより良い環境を育ていけるよう、支援活動を通して支えていきたいと考えております。

ウガンダ事業現地駐在員 アレン・キム

*本事業は、ジャパン・プラットフォームからの助成金や個人・法人のみなさまによる寄付金により実施しています。



コミュニティ内の共同水場の管理方法を学ぶ
(ビディビディ難民居住地区)

テータの存在で、対象地域内の各村から56名の若者が選ばれ、現在6か月間の研修を受けています。この期間中は、2~3日間の知識やスキルを学ぶ座学と、3週間のコミュニティ内での実践活動を繰り返します。研修後は、地域住民によるさまざまな活動をサポートする役割を担います。地域の仕組みや課題の改善に向けた取り組みなどの実践能力を育み、地域住民